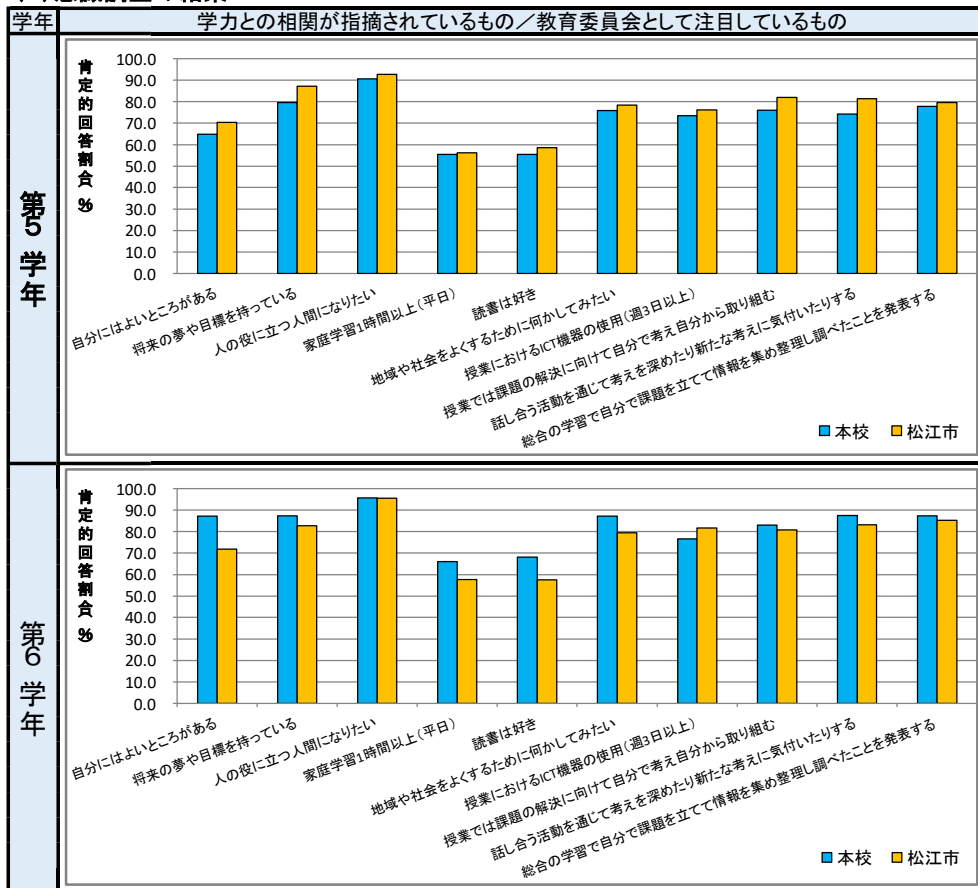


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(+)
第5学年	国語	成果	○「意見文を書く・情報と情報の関係を理解している」などの項目は正答率が高く、市平均、推定全国値をかなり上回っている。
		課題	●多くの領域、問題内容で推定全国値を下回っており、国語の力全般に課題がある。 ●複数のグラフの中から文章に応じたグラフを選ぶ問題は、文章を読み取る力だけでなく算数の学力も必要である。
	算数	成果	○計算力は身につけている。特に、分数や小数の計算技能がよく身につけている。 ○「単位量あたりの大きさ」についてよく理解している。
		課題	●直方体を組み合わせた形の体積を求める、多角形の角の大きさを求める、式の意味を読み取るなど、思考・判断の面で課題がある。 ●問題量が多いこと、タブレット操作に慣れていないことなどから、最後の問題まで解くことができていない様子が見られる。
第6学年	国語	成果	○5年生時の島根県学力調査に比べ、偏差値で3ポイント程度の伸びが見られた。特に書く力は伸びた。自分なりの視点を捉え、思いを文章表現しようとしている。
		課題	●全体的に推定全国値や市の正答率を下回っており、国語の力全般に課題がある。 ●接続語の意味や使い方の理解が不十分である。 ●物語文より説明文の方が正答率が低い。物語文の方が思いや描写を読み取りやすく、説明文の方が読み取りにくいものと思われる。
	算数	成果	○5年生時の島根県学力調査に比べ、偏差値で5ポイント程度の伸びが見られた。 ○分数のかけ算・わり算など、基礎的な知識・技能がよく身につけている。
		課題	●問題文から立式をすることが難しい。解答が関係式であることに慣れていない。求められていることが分かっていない。 ●円の面積や円周を求める公式が身につけていない。 ●タブレット操作に慣れてず、スクロールしながら考えを深めることが難しい。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞
 成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】
 ○「ICT機器利用週3日以上」の割合は市平均を下回るが、「ほぼ毎日」「1日に複数授業」の割合は市平均よりも高い。
 ●「自分にはよいところがある」「夢や目標をもって」と回答した児童の割合が低く、自己肯定感が低いと考えられる。自己肯定感を高める学級づくりや授業づくりが必要である。

【第6学年】
 ○「自分にはよいところがある」「夢や目標をもって」と回答した児童の割合が高く、自己肯定感が高いと考えられる。
 ○家庭学習が1時間以上の児童や読書が好きな児童の割合が高い。
 ●「ICT機器利用週3日以上」と回答した児童の割合が、市平均を下回っている。ICT機器の利用を一層進める必要がある。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	54	名
第6学年	47	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示